

## 夜の森の昆虫観察会

天候：曇り

報告者：徳永 さと子

(1/4)

## 1 夜の森の昆虫観察会

8月21日(土)、今年もT-KIDS主催の『夜の森の昆虫観察会』が当公園を会場にして開催されました。当初1週間前の14日に予定されていましたが、荒天の為に実施できず、この日に延期となったものです。当日は夕方からコースの最終確認及び、ライトトラップの設営等の準備をして開会を待ちました。今年は、園内にスズメバチが多く見られた為、観察コースをどうするか、ライトトラップの場所は昨年と同じでよいのか、直前まで検討を重ねました。ほとんどのハチは、日が暮れてからは活動をしません、ハチの多いところで大勢で集まったり、煌々と灯りを点すのもどうかということで、観察は参加者を2グループに分けて少人数で二手から、またライトトラップの観察は、こんぶくろ池前に変更しました。発電機も調子よく作動し、集まってくださった会員の皆さんの手際のよい作業で、問題なく設営が完了しました。



集合時間の少し前から来園した参加者(小学3年生以上のお子さんとその保護者の皆さん10組)の皆さんは、受付と手指の消毒、検温を済ませ、管理棟前に集まりました。皆さん、とてもわくわくした表情です!

皆さんには虫かごの他に、懐中電灯のライトを覆う赤いセロハンと輪ゴムを配りました。これは、観察する昆虫を驚かさないようにする為です。昆虫は赤い光を認識しないので、照らしても逃げません。また、暗がりでの観察や作業をする私たちの目にとっても、通常の明るい光よりは赤い光の方が周囲の暗さに順応しやすいと言われています。

## ノジトラノオの草地周辺



ナナフシモドキ



ウマオイの仲間

草地の観察で、一番の狙いはカマキリでした。カマキリ(複眼)は、夜になると光を多く取り入れようと黒く変化します。その様子が観察できたらと期待したのですが、この日はどうしたのか1匹も確認できず……。代わりに登場してくれたのはナナフシモドキでした。園内のあちらこちらで見つかり、初めは恐る恐る見ていた子ども達も「あ、またナナフシだ!」と、すっかり慣れた様子。仕舞には、観察に夢中になっていた女の子の頭の上にも、いつの間にか1匹のナナフシモドキが掴まっていました。暗闇にも目が慣れたころ、杭の上で休むウマオイの仲間や、葉陰で身を隠すキリギリスの仲間などが見つかりました。

### 弁天池～こんぶくろ池間の園路



アオマツムシ



シャクガの仲間



コシロシタバ



ザトウムシの仲間

森の中では、夕方鳴いていたヒグラシに代わって、アオマツムシの合唱が始まっていました。アオマツムシは中国からの帰化昆虫です。樹上で暮らす為、姿を目にすることはあまりありませんが、大きな鈴の音のような派手な鳴き声は、近年、私たちの暮らす住宅街でも、季節の変わり目を知らせる合図として、すっかり御馴染みとなりました。8月も後半に入り、セミの羽化も一段落してしまったのか、残念ながら遭遇することは叶いませんでした。用意した糖蜜を吹きかけた幹には、シタバガの仲間などが蜜を舐めに来ていましたが、参加者の興味を引くほどの数は観察できませんでした。他には、森の住人ザトウムシもあちこちでゆらゆらと散歩をしていました。ザトウムシの小さな小さなふたつの目、観察できたでしょうか？

### ライトトラップ観察

ライトトラップ観察の様子です。

当日はほぼ満月！通常ライトトラップには向かないのですが、空を覆う厚い雲が味方をしてくれました。

ただ時期が遅かった為、やはりこちらも昆虫が少なめです。



アオドウガネ



クロスジアワフキムシ



チャバネアオカメムシ



ヒメハラナガツチバチ

一番目立ったのはコガネムシ類でした。中でも多かったのはアオドウガネだったのでしょうか。これを、おっかなびっくり、何とか指にとまらせてみようかと挑戦しているお子さんも。周囲にもドキドキ感が伝わって来ました。他には、セミ、カメムシ、ハチの仲間などが飛来しました。誘蛾灯（ブラックライト）も設置しましたが、思ったほど蛾の仲間は集まりませんでした。

## ワタラセツリフネの草地周辺



カラスウリの花とニッポンマイマイ



ワタラセツリフネの草地周辺では、そろそろ終わりを迎えるカラスウリの花がまだ幾つか咲いており、初めて見るという保護者の方も多く、写真を撮るなどして、じっくり観察されていました。



また、お子さん達も積極的に虫探しを始めるようになり、脱皮中のクモや、日中は隠れていてあまり見るチャンスのないゴミムシの交尾など、私達もびっくりするような発見をしてくれました。



脱皮中のナガコガネグモ



オオゴミムシの交尾



## 観察会の終わりに

8時半に管理棟前に戻り、それぞれ採集してきた昆虫を2つのテーブルに並べ、どんなものが見つかったか確認しました。自分の居たグループでは見られなかった昆虫もいて、お子さん達は熱心に容器の中の虫に見入っていました。その後、『虫合わせ』で情報を共有し、観察会を締めくくりました。

今回観察できた昆虫は55種（その他10種）でした。昨年と比べると、子どもたちに人気のカマキリが1匹も確認できなかったり、全体的に数が少なめだったことは残念ですが、時期的に、カブトムシやクワガタなどの夏の昆虫と、バッタ類を始めとする秋の昆虫と一緒に観察できた点で、楽しめたのではないかと思います。



## 観察した昆虫・生き物種名一覧

チョウ目			バッタ目		
1	アカボシゴマダラ(幼虫)	タテハチョウ科	39	オンブバッタ	オンブバッタ科
2	クロコノマチョウ	タテハチョウ科	40	ウマオイの仲間	キリギリス科
3	コジャノメ	タテハチョウ科	41	キリギリスの仲間	キリギリス科
4	スズメガの仲間(幼虫)	スズメガ科	42	クサキリ	キリギリス科
5	コシロシタバ	ヤガ科	43	ササキリ(幼虫)	キリギリス科
6	ヤガの仲間	ヤガ科	44	エンマコオロギ	コオロギ科
コウチュウ目			45	ツユムシの仲間	ツユムシ科
7	コハンミョウ	オサムシ科	46	コバネイナゴ	バッタ科
8	トウキョウヒメハンミョウ	オサムシ科	47	ショウリョウバッタ	バッタ科
9	オオゴミムシ	オサムシ科	48	ツチイナゴ(幼虫)	バッタ科
10	ゴモクムシの仲間	オサムシ科	49	アオマツムシ(鳴声)	マツムシ科
11	ゴミムシの仲間	オサムシ科	50	スズムシ(鳴声)	マツムシ科
12	ゴマフカミキリの仲間	カミキリムシ科	トンボ目		
13	コクワガタ	クワガタムシ科	51	シオカラトンボ	トンボ科
14	ノギリクワガタ	クワガタムシ科	52	ノシメトンボ	トンボ科
15	アオドウガネ	コガネムシ科	ナナフシ目		
16	コフキコガネ	コガネムシ科	53	ナナフシモドキ	ナナフシ科
17	カブトムシ	コガネムシ科	ゴキブリ目		
18	ビロウドコガネ	コガネムシ科	54	ゴキブリの仲間	ゴキブリ科
19	カナブン	コガネムシ科	ハサミムシ目		
20	コメツキムシの仲間	コメツキムシ科	55	ハサミムシの仲間	
21	オオヒラタシデムシ	シデムシ科	その他の生き物		
22	シロコブゾウムシ	ゾウムシ科	クモ目		
23	イチモンジカメノコハムシ	ハムシ科	56	ワカバグモ	カニグモ科
カメムシ目			57	ハシリグモの仲間	キシダグモ科
24	アオバハゴロモ	アオバハゴロモ科	58	コガネグモ	コガネグモ科
25	アメンボの仲間		59	ゴミグモ	コガネグモ科
26	クロスジアワフキムシ	アワフキムシ科	60	サツマノミダマシ	コガネグモ科
27	クサギカメムシ	カメムシ科	61	ナガコガネグモ	コガネグモ科
28	チャバネアオカメムシ	カメムシ科	62	コマチグモの仲間(産産)	コマチグモ科
29	カメムシの仲間		ザトウムシ目		
30	アブラゼミ	セミ科	63	ザトウムシの仲間	
31	ツクツクボウシ(鳴声、抜け殻)	セミ科	有肺目		
32	アミガサハゴロモ	ハゴロモ科	64	カタツムリの仲間	
33	スケバハゴロモ	ハゴロモ科	65	ニッポンマイマイ	オナジマイマイ科
34	ベッコウハゴロモ	ハゴロモ科			
ハチ目			☆ 種名が確認できなかったものは、“～の仲間”として加えましたが、2グループからの別々の観察記録を合わせた為、一部、種名の分かっているものと重複している可能性があります。 例) カタツムリの仲間→ ニッポンマイマイの可能性もあり。		
35	アリの仲間	アリ科	☆ 科名が複数考えられるものは、記載していません。		
36	オオスズメバチ	スズメバチ科			
37	コガタスズメバチ	スズメバチ科			
38	ヒメハラナガツチバチ	ツチバチ科			